

製品名: MafF ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab13562

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	MAFF
別名	MAFF; Transcription factor MafF; U-Maf; V-maf musculoaponeurotic fibrosarcoma oncogene homolog F
遺伝子 ID	23764.0
SwissProt ID	Q9ULX9
免疫原	抗血清はヒト MAFF 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 51-100

背景

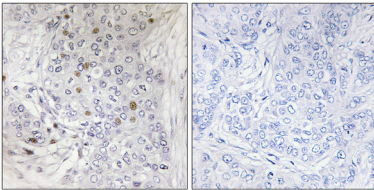
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写活性化ドメインを欠く塩基性ロイシンジッパー (bZIP) 転写因子である。オキ

シトシン受容体 (OTR) 遺伝子のプロモーター領域にある US-2 DNA エlement に結合することが知られており、おそらく他のロイシンジッパー含有タンパク質とヘテロ二量体を形成し、正常産妊娠中に OTR 遺伝子の発現を増強すると考えられる。コードされるタンパク質はホモ二量体も形成するが、転写活性化ドメインを欠くため、ホモ二量体は転写抑制因子として機能する可能性がある。この遺伝子は細胞ストレス応答にも関与している可能性がある。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2009年6月]、機能: オキシトシン受容体遺伝子上流プロモーター領域と相互作用する。分娩時のオキシトシン受容体遺伝子の発現亢進における転写エンハンサーである可能性がある。推定上の転写活性化ドメインを欠いているため、自身で二量体を形成すると転写抑制因子として作用する可能性がある。また、他の (通常はより大きな) 塩基性ジッパータンパク質と二量体を形成し、それらを特定の DNA 結合部位にリクルートすることで転写活性化因子として機能する可能性もある。細胞ストレス応答に関与している可能性がある。誘導: 酸化ストレスによる。類似性: bZIP ファミリーに属する。類似性: bZIP ファミリーに属する。Maf サブファミリーに属する。類似性: 1つの bZIP ドメインを含む。サブユニット: 単量体およびホモまたはヘテロ二量体。MIP と相互作用する。組織特異性: 子宮筋層および腎臓という用語で表される。、

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、ドメインファミリー、HLH/ロイシンジッパー、ロイシンジッパー、転写因子、クロマチン結合タンパク質、DNA/RNA 結合、細胞生物学、その他の抗体、酸化ストレス、代謝、経路とプロセス、酸化還元代謝

画像データ



MAFF 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。